



2025 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 プライム・ストラテジー株式会社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 吉 政 忠 志
(コード番号：5250 東証スタンダード)
問 合 せ 先 取 締 役 城 塚 紘 行
(TEL 03-6551-2995)

新たな事業の開始に関するお知らせ

当社は、2025 年 5 月 15 日開催の取締役会において、下記のとおり、新たな事業を開始することについて決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 事業開始の趣旨

企業においては DX やデジタル化が進み、経営状況や業務状況をリアルタイムに把握できるようになってきています（見える化の実現）。これにより迅速な経営・業務判断ができるようになった一方、検索で得られた多量な情報の中から目的の情報を探し出す時間や、メールやチャット等で質問から回答を得られるまでの時間は非生産的な時間であり、これを「MAGATAMA Stack」により大幅に削減することで、企業の生産性を大きく向上できるのではないかと考えています。

一方で、ChatGPT の登場による生成 AI の認知や優れた SaaS アプリケーションが企業内で普及しつつある現在、個別業務システムや SaaS アプリケーションに RAG を組み込むニーズが高まって来ていますが、実際には AI エンジニアの頭数や実用精度を出すための技術習得が難しい制約に加え、利用料固定の SaaS アプリケーションとトークンベースの従量課金を求めるクラウド LLM（OpenAI 社の GPT や Anthropic 社の Claude）とはコストモデルの違いから相性が悪く、お客様への価格転嫁の問題もあって対応が進まないケースがあるのが実情です。

そこで、当社はセキュアで高性能な汎用 RAG 製品「MAGATAMA Stack」の開発・事業化を決定しました。

ローカル LLM（Meta 社の Llama 等）により月額固定化が可能な「MAGATAMA Stack」は、業界や企業専用のファインチューニングはもとより、機密情報を取り扱う企業内の情報システムや SaaS アプリケーションへの組み込みに最適なソリューションを提供可能です（「MAGATAMA Stack」はあらゆるニーズに対応するため、ローカル LLM の他、クラウド LLM も利用可能です）。

※RAG=Retrieval-Augmented Generation（検索拡張生成）の略で、生成 AI に外部情報を参照させることで最新情報に基づいた高精度な回答を生成させる技術です。

※LLM=Large Language Model（大規模言語モデル）の略で、大量のテキストデータとディープラーニング技術を基に構築された言語モデルで人間のような自然な言語理解と生成を実現する AI 技術です。

2. 新たな事業の概要

(1) 新たな事業の内容

(a) MAGATAMA Stack とは

MAGATAMA Stack はセキュアで高性能な汎用 RAG 製品です。特徴は以下の通りです。

- ・マルチテナント対応（個別業務システムや SaaS アプリベンダー向けに 1 つの仕組みで複数のお客様に RAG を提供可能）
- ・OSS+ローカル LLM で高いセキュリティと信頼性で従量課金なしの価格で提供（API キーを設定すれば、クラウド LLM（OpenAI 社の GPT や Anthropic 社の Claude 等）も利用可能）
- ・ローカル LLM 使用時の性能は Claude 3.x Sonnet レベル（ローカル LLM には Llama4.x 等を使用）
- ・セキュリティ&性能向上のための定期アップデートを提供（年間メンテナンスパックや運用保守サービスにて実現）
- ・必要に応じて LLM のファインチューニングをオプションで提供予定（含：データ作成&保守）
- ・シングルサインオン対応（一般企業向けに OIDC、SAML2.0 に対応）
- ・AI デスクトップやエージェントから操作可能（専用クライアントとして MCP（Model Context Protocol）Server を提供）
- ・有償ライセンス版は SaaS アプリケーションや他システムから操作可能（データを登録/更新/削除、質問/回答を得るための API を提供）
- ・共有フォルダ（社内のファイルサーバーやクラウドストレージ）上のファイルを取り込み可能（ファイル追加イベントや実行アクションを契機にインデックス化、別途提供する管理ツールで対象から削除することも可能）

「MAGATAMA Stack」は当社のローカル LLM 技術である「MAGATAMA AI」をコアにした汎用 RAG 製品で、セキュアで高性能な RAG の仕組みをお客様企業ネットワーク内のオンプレミス環境に構築することも可能です（AWS や Azure 等のクラウド環境上に構築することも可能）。一般企業のナレッジベースとしての単体利用はもちろん、個別業務システムや SaaS アプリケーション側のバックエンドサービスとして情報漏洩や従量課金を気にすることなく幅広く活用することが可能です。

(b) MAGATAMA Stack の活用イメージ

① 社内ヘルプデスク

社内規定や利用者マニュアル等を登録しておき、社内ポータル等で公開。情シスや人事、総務など、社内からの問い合わせに対応する部門の代わりに社員自らが問題解決できるようにする。

② カスタマーサポート（コンタクトセンター/SaaS、ウェブアプリケーションベンダー）

製品マニュアルや FAQ を登録しておき、サポートセンターのオペレーターがお客様からのサポート依頼に対して迅速に対応できるようにする。また、サポートサイトやチャットボット等で公開。お客様自ら問題解決できるようにすることも考えられる。

③ 営業・フィールドスタッフ向け支援

商品情報や提案資料、事例などを登録しておき、営業メンバーや顧客担当者が必要とする情報を要約提供することで「検索して探す」時間を節約。

④ 製造業における技術ノウハウの共有

作業手順、トラブル対応履歴などを登録しておき、ベテランの技術やノウハウを若手が迅速に参照できる仕組みを提供する（探したり聞いたりする時間を節約）。

⑤ プロジェクトナレッジの蓄積

開発プロジェクトや業務プロセスに関するドキュメントを登録しておき、次回以降のプロジェクトで再利用する（探したり聞いたりする時間を節約）。

(c) その他

- ・一般企業がナレッジベース代わりに使える無償の OSS 版（MCP 対応により、AI デスクトップやエージェントと連携）と前記機能に加え個別業務システムや SaaS アプリケーションの RAG バックエンドとして使える他システム連携用 API を備えた有償のライセンス版（主にシステム開発ベンダーや SaaS アプリベンダー向け）の 2 つを年内にパイロット版リリースすることを目指します。
- ・国内の生成 AI 市場は RAG がけん引する形で拡大する予想がされており、当社はこの RAG の分野に参入し、セキュアで高性能な汎用 RAG を年内にパイロット版リリースすることを目指します。
- ・当社は、パイロット版を先行利用していただける企業ユーザーの募集を開始すると同時に、将来的な海外展開やグローバル企業の利用に備え、「MAGATAMA Stack」の多言語対応も進めていきます。
- ・「MAGATAMA Stack」有償ライセンス版は、120 万円（税抜）＋年間メンテナンス月額 5 万円（税抜）での利用が可能であり、有償版・無償版共にオプションで有償サポートサービス（ex. 1～25 ユーザーまで月額 5 千円（税抜）～）の契約が可能です。また、最大の特徴として、ローカル LLM 利用時にはトークン使用量に基づく従量課金すら必要ありません。当社は、無償の OSS 版で企業の RAG 導入を促進し、日本の DX 化に貢献します。なお、ご要望により、導入支援、ファインチューニングやコンサルティング、インテグレーション費用などが別途発生することがあります。
- ・本ソフトウェアを稼働させるためのオンプレ用サーバーマシンや AWS/Azure/GCP 等のインフラ費用が別途必要になります。

※パイロット版＝製品サービスを限定範囲で実装し、実際の運用環境上での性能や効果を検証するためのバージョンです。

(2) 当該事業を担当する部門

マーケティング部。なお 2025 年 6 月 1 日以降は、AI ビジネス部が担当いたします。

(3) 当該事業の開始のために特別に支出する金額及び内容

当該事業の開始のために特別に支出する金額は、システム開発にかかるコストとして 50,000 千円（概算）の支出を見込んでおります。その他、当該事業遂行の過程では広告宣伝費や人件費等の支出が見込まれます。

3. 日程

(1) 取締役会決議日	2025 年 5 月 15 日
(2) 事業開始期日	2026 年 5 月（予定） ※パイロット版は 2025 年内のリリースを目指します。

4. 今後の見通し

「MAGATAMA Stack」のリリースが 2026 年 5 月予定のため、2025 年 11 月期の業績に与える影響は軽微であると見込んでおりますが、中長期的には当社の業績に資するものと想定しております。なお、今後適時開示の必要性が生じた場合には、速やかに開示いたします。

以 上